



様式第4号（第6条関係）

令和元年8月5日

富士見市議会議長 篠田 剛 様

会派 21・未来クラブ

代表 関野 兼太郎

行政視察（政務活動）報告書

下記のとおり、行政視察（政務活動）を実施しましたので、報告いたします。

記

1 期 間 令和元年7月29日（月）

2 参加者名 関野 兼太郎 斉藤 隆浩 尾崎 孝好 田中 栄志
上杉 考哉 佐野 正幸 吉原 孝好

3 場 所（行政視察地・研修場所）

埼玉県新座市

4 調査・研修概要

「オリンピック・パラリンピックホストタウンの取り組みについて」

（1）新座市の概要

新座市は、昭和30年3月に片山村と大和田町が合併して新座町になり、その後、都市化とともに人口が急増し、埼玉県で30番目の市として昭和45年11月1日に誕生した。

埼玉県の最南端に位置し、東は朝霞市、南は東京都練馬区、西東京市及び東久留米市、西は東京都清瀬市及び埼玉県所沢市、北は埼玉県入間郡三芳町及び志木市と行政境界を有し、都心から25km圏内に位置している。

江戸時代初期に、川越藩主松平伊豆守信綱が玉川上水からの分水権を得て、野

火止台地の開発のために野火止用水を開削したことは有名である。また、野火止にある平林寺は、臨済宗妙心寺派における関東の本山として位置付けられており、ナラヤクヌギなどの境内林は、昭和43年に国の天然記念物に指定されている。

- ・人口は、165,478人（令和元年7月1日）
- ・面積は、22.78km²
- ・令和元年度一般会計当初予算額は、497億8,600万円

（2）調査の概要

①概要・経過

新座市では、陸上自衛隊朝霞訓練場（新座市、朝霞市、和光市、東京都練馬区に広がる）において、オリンピック・パラリンピックの射撃競技が開催される予定である。また、ブラジルのホストタウンに登録されており、オリンピック・パラリンピックに向けてブラジルのオリンピック選手団が新座市内で事前キャンプを行う予定もある。現在、市ではオリンピック・パラリンピックの開催に向け、ブラジルホストタウンとしてオリンピック・パラリンピックの気運醸成のための事業や啓発事業など様々な取り組みを行っている。

②具体的対応策・取り組み状況

○ブラジルのホストタウン登録

- ・新座市はブラジルとは縁がなかったが、埼玉県と学校法人立教学院の働きかけによりブラジルオリンピック委員会が平成28年11月24日に立教大学新座キャンパスと新座市総合運動公園陸上競技場を視察した。
- ・これを受けて、平成28年12月4日ブラジルホストタウンに埼玉県と新座市が登録した。
- ・平成29年2月15日と平成30年3月27日にもブラジルオリンピック委員会が市内施設を視察している。

○ふるさと創造資金の活用と特別交付税措置

- ・埼玉県ふるさと創造資金は、市町村の主体的な取り組みを支援するため埼玉県が交付する補助金である。新座市は、東京オリンピック・パラリンピックの射撃競技の会場となっており、また、ブラジルホストタウンに登録されていることから、平成30年度にふるさと創造資金を活用してブラジルオリンピック選手団の事前トレーニングキャンプ誘致及びオリンピック・パラリン

ピック気運醸成事業を実施した。

- ・新座市は、ブラジルホストタウンとして取り組んでいる様々な交流活動事業に対して特別交付税措置を得ている。

○オリンピック・パラリンピック気運醸成事業

- ・新座市では、オリンピック・パラリンピックの気運醸成を図るため、様々な事業を実施している。主な事業の内容は次のとおり。
- ・埼玉県主催の2年前イベントにブラジルホストタウンPRブースを出展。
- ・庁内職員を対象としたボッチャ大会の開催やビームライフル体験、東京2020エンブレム入りポロシャツを活用した集合写真撮影&SNS発信。
- ・カウントダウンボード及びカウントダウンパネルの設置、うちわ・ピンバッジ・のぼり・横断幕・東京2020エンブレム入りポロシャツなどの啓発品の作成。
- ・「広報にいざ」にポルトガル語講座やマンガ「ライフル・イズ・ビューティフル」を掲載。
- ・新座市オリジナルキャッチフレーズに「新座で結ぼう世界の絆」を決定。
- ・オリンピック500日前イベントとしてブラジル人講師によるブラジルホストタウン講演会を開催。
- ・ブラジル人の国際交流員によるブラジル文化を紹介する出前講座の実施。

○小中学校でのオリンピック・パラリンピック教育

- ・新座市内の小中学校では、食を通してブラジルを理解する食育やオリンピック・パラリンピック教育が行われている。主な事業内容は次のとおり。
- ・株式会社明治によるブラジルホストタウン「世界で愛されるチョコレート」食育講座を市立第四中学校で開催。
- ・給食調理員研修会でブラジル料理試食、学校給食でブラジル料理提供。
- ・市内の小中学校でオリンピック・パラリンピックに関係する多種多様な授業を実施。

○関係自治体（朝霞市・和光市・東京都練馬区）との連携

- ・朝霞市及び和光市とは、合同企画のマンガ「ライフル・イズ・ビューティフル」の広報紙への掲載を連携しながら実施している。
- ・オリンピック・パラリンピック聖火リレーの警備などで連携を図っている。
- ・埼玉県の都市ボランティア募集について、募集のチラシを共同で配布した。

○オリンピック・パラリンピックの推進体制

- ・新座市全体でオリンピック・パラリンピックの成功に向けた取り組みを行うとともに、オリンピック・パラリンピック開催後にも末永く継承されるレガシー（遺産）を創出するため、市を始め、スポーツ団体、文化芸術団体、国際交流団体、大学などの関係団体で構成する「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会新座市推進委員会」が、平成29年12月21日に設立された。委員会は年1回開催されている。
- ・庁内の体制としては、市長、副市長、教育長及び各部長で構成する「推進本部」を組織するとともに、その下部組織として総合政策部長、オリンピック・パラリンピック推進室長、関係課長で構成する「幹事会」を設置し、オリンピック・パラリンピックに関する具体的取り組みについて検討・実施している。幹事会については、不定期で開催している。総合的な企画調整は、総合政策部オリンピック・パラリンピック推進室が行っている。

(3) 効果・課題

①効果

- ・オリンピック・パラリンピック開催に向け、気運醸成のための事業や啓発事業など様々な取り組みを実施していることから、「新座市は射撃競技の開催会場であること」、また、「新座市はブラジルのホストタウンであること」が市民に周知されている。
- ・市内小中学校において、オリンピック・パラリンピック教育が行われており、子供たちはオリンピック・パラリンピックへの理解を深めるとともに、パラアスリートを講師とした体験型授業などを通して、多様性への理解を深めることができた。

②課題

- ・オリンピック・パラリンピック終了後、ホストタウンとしての取り組みをどのように活かしていくかが課題である。
- ・オリンピック・パラリンピックによって創出されたレガシー（遺産）を引き続き、関係団体と連携を図りながら末永く継承発展させていくことが求められる。

(4) 感想及びまとめ

新座市は、平成28年12月4日にブラジルを相手国としたホストタウンに登録され、オリンピック・パラリンピックの開催気運を高めるため、様々な事業に取り組んでいる。特に、行政だけではなく市内の各種団体と一体となって大会の開催に向け、気運を盛り上げて行こうとする取り組みを継続して行っていることは高く評価できる。

一方、本市は、平成30年12月28日にセルビア共和国のホストタウンに登録された後、本年7月8日から11日にかけて市長、議長、市国際友好協会会長をはじめとする訪問団がセルビア共和国を訪問し、セルビア共和国選手団の事前キャンプなどについて、レスリング協会会長並びにハンドボール協会会長と協定書を締結した。

今回、新座市のホストタウンとしての先進的な取り組みを視察した結果、オリンピック・パラリンピックの開催に向け、市全体で大会の気運を高めていくことが大変重要であると感じた。

また、本市においても、新座市など先進自治体の取り組み事例も参考としながら、セルビア共和国のホストタウンとしての取り組みを、今後、さらに加速化させるとともに、市民や市内各種団体に対し、その取り組みを積極的にPRしていくことが必要と考える。

*行政視察に関する調査書、概要、参考資料等は、会派にて保管